

評価委員から提出された確認事項等に対する回答

1 財務諸表に関するもの（第1回資料2 関係）

No.	頁	小項目	意見・質問	回答
1	4		キャッシュフロー計算書の「Ⅱ投資活動によるキャッシュフロー」の区分で、無形固定資産の取得による支出△136,826,900円がありますが、付属明細書の（1）固定資産の明細には無形固定資産の取得は当期ありません。理由をお願いします。	リハビリテーション病院の電子カルテシステムは、完成が28年3月であるため、資産計上は27年度に行っていますが、これに係る業者への支払については28年4月に行ったことから、28年度のキャッシュフロー計算書にマイナス計上となったものです。
2	5		キャッシュフロー計算書の「Ⅲ財務活動によるキャッシュフロー」の区分で、移行前地方債償還債務の償還による支出が△3,247,400,549円ありますが、付属明細書のP17では当期減少額5,689,000,549円となっています。差異理由をお願いします。	法人化前の病院事業債は、市が引き継いでおり、地方独立行政法人法により、法人は市に対し、債務を負担するものです。 リハビリテーション病院建設時の用地取得に係る国の起債許可について、借入先は銀行等、償還期間は30年となっていました。このため、銀行からは10年で借入れ、以後2回の借り換えを行い、償還期間を30年としています。 御指摘の差異24億4,160万円については、この度市が1回目の借り換えを行ったものです。一括償還した額と新たな借入額は、同額の24億4,160万円であり、実際には市と機構でこの資金のやり取りは行っていないことから、「キャッシュフロー計算書」の支出額と「移行前地方債償還債務の明細」の当期減少額に差異が生じたものです。
3	8		注記事項のⅣの固定資産の減損でリハビリテーション病院が継続して赤字ですが検討されていない理由をお願いします。	リハビリテーション医療は、国の繰出基準により、当該医療の実施に要する経費のうち、これに伴う収入をもって充てることができない額は繰出し対象とされています。 このため、リハビリテーション病院のキャッシュフローの不足額は、全額、市からの繰入金で補填されることから、赤字が生じていても減損の兆候は認めないとされています。

2 決算説明資料に関するもの（第1回参考資料4 関係）

No.	頁	小項目	意見・質問	回答																																
1	9 10		期末の現預金残高をこえる資金が留保資金となって各病院で保有されております。 具体的な資金の内訳と残高の妥当性の検証方法について説明をお願いします。 また、新規取得に際して留保金以外に長期借入金によることの説明をお願いします。	留保資金とは、損益収支のうち減価償却費、引当金等現金支出を伴わない費用の合計額から欠損金を差し引いた額で、企業の内部に留保された資金です。 法人化前の地方公営企業会計時の決算参考資料において、毎年「損益勘定留保資金等の状況」として当該数値を報告していたことから、法人化後も引き続き決算説明資料で報告しています。 留保資金177.4億円の算出方法は、減価償却費、引当金等現金支出を伴わない費用から欠損金を差し引いた額を積み上げて算出していますが、妥当性の検証方法としては、「流動資産」（引当金を除く）から「流動負債」（起債の償還債務と引当金を除く）を差し引いた額となります。 また、医療機器等の購入については、長期借入金による整備を行えば、国の繰出基準により、償還時に償還額の概ね1/2が市から繰入金として補てんされることから、長期借入金による整備を基本としております。 <table><tr><th colspan="2">留保資金の内訳（単位：億円）</th></tr><tr><td>流動資産</td><td>232.7</td></tr><tr><td>現金及び預金</td><td>64.3</td></tr><tr><td>有価証券</td><td>72.8</td></tr><tr><td>医業未収益</td><td>86.9</td></tr><tr><td>未収金</td><td>5.5</td></tr><tr><td>医薬品</td><td>1.7</td></tr><tr><td>診療材料</td><td>0.4</td></tr><tr><td>貯蔵品</td><td>0.0</td></tr><tr><td>前払金</td><td>1.1</td></tr><tr><td>流動負債</td><td>55.3</td></tr><tr><td>医業未払金</td><td>38.8</td></tr><tr><td>未払金</td><td>12.8</td></tr><tr><td>未払消費税等</td><td>0.2</td></tr><tr><td>預り金</td><td>3.5</td></tr><tr><td>差引</td><td>177.4</td></tr></table>	留保資金の内訳（単位：億円）		流動資産	232.7	現金及び預金	64.3	有価証券	72.8	医業未収益	86.9	未収金	5.5	医薬品	1.7	診療材料	0.4	貯蔵品	0.0	前払金	1.1	流動負債	55.3	医業未払金	38.8	未払金	12.8	未払消費税等	0.2	預り金	3.5	差引	177.4
留保資金の内訳（単位：億円）																																				
流動資産	232.7																																			
現金及び預金	64.3																																			
有価証券	72.8																																			
医業未収益	86.9																																			
未収金	5.5																																			
医薬品	1.7																																			
診療材料	0.4																																			
貯蔵品	0.0																																			
前払金	1.1																																			
流動負債	55.3																																			
医業未払金	38.8																																			
未払金	12.8																																			
未払消費税等	0.2																																			
預り金	3.5																																			
差引	177.4																																			

3 業務実績報告書に関するもの（第1回資料3 関係）

大項目：第1-1 市立病院として担うべき医療

No.	頁	小項目		意見・質問	回答
1	12	(1) 広島市民病院	エ 災害医療の提供	【災害その他の緊急時における医療救護活動の実施】 平成28年の熊本地震における医療救護班とDMAT派遣につき、その具体的な活動内容をご教示下さい。	[DMAT隊] 〈広島市民病院〉 平成28年4月16日(土)～4月19日(火) 4名(医師1人、看護師1人、薬剤師1人、臨床検査技師1人) ・医療救護活動(阿蘇医療センター等) 〈安佐市民病院〉 平成28年4月16日(土)～4月19日(火) 5名(医師1人、看護師3人、薬剤師1人) ・医療救護活動(阿蘇医療センター等) [医療救護班] 〈広島市民病院〉 平成28年4月27日(水)～4月30日(土) 5人(医師1人、看護師2人、薬剤師1人、業務調整員1人) ・医療救護活動(阿蘇医療センター) 〈安佐市民病院〉 平成28年4月30日(土)～5月3日(火) 5人(医師1人、看護師2人、薬剤師1人、業務調整員1人) ・医療救護活動(阿蘇温泉病院、阿蘇医療センター) 〈リハビリテーション病院〉 平成28年5月23日(月)～5月26日(木) 1人(医師1人)
2	15		ケ 病棟薬剤師業務の充実	【薬剤師の専任配置】 この7名の増員で、全病棟に専任薬剤師を配置できたことになるのか？	26年度から計画的に行い、28年度に7名を増員したことで、全病棟に専任薬剤師を配置しました。

No.	頁	小項目		意見・質問	回答
3	17		ア 救急医療の提供	【脳神経センター機能の強化】 統合した脳神経センターが対処した患者数は如何ほどか。対前年比ではどうか。	27年度844件、28年度955件で対前年度比で13.2%の増加です。
4			イ がん診療機能の充実	【手術、化学療法、放射線治療と、これらを適切に組み合わせた治療の実施】 組み合わせ療法を受けた患者数はどの程度か、対前年度比ではどうか。治療成績はどうか。	27年度は82件、28年度は100件で前年度比22%の増加となっています。 治療成績については、まだ検討できる段階ではありません。
5	19	(2) 安佐市民病院	エ ヘき地医療の支援	【北部地域の医師の支援のためのWeb会議システムの導入】 Web会議システム導入は、発想がよいので、「4」評価でもよいのではないか。	御指摘のとおり、北部地域7医療機関の診療相談と医療機関合同のカンファレンスができるようにし、年度計画を順調に実施していると判断したことから、評価を「3」としました。
6				【北部地域の医師の支援のためのWeb会議システムの導入】 新しい取組としてWeb会議システム導入を行い、診療所からの診療相談を容易にしており、「4」評価でもよいのではないか。	離れた場所を繋いでの診療相談、合同カンファレンス、研修会の実施などが可能となることから、まさに「北部地域の医療従事者に対する研修の場を提供し、知識の習得や技術の向上を支援するとともに、交流の場を提供」することになるものであると評価しています。
7	27	(3) 舟入市民病院	オ 病院の特徴として標榜できる診療の実施検討	【舟入市民病院のあり方の検討】 舟入市民病院のあり方の検討委員会でのまとめにつき、その具体的な内容をご教示いただきたい。	病院の現状、取り巻く経営環境などを踏まえ、今後のあり方を検討し、その実現に向けた取り組みをまとめました。具体的な項目を例示すると、小児救急医療の堅持、小児専門診療科の充実、障害児者の診療相談窓口の開設、広島市民病院からの手術症例受け入れ強化、地域住民の緊急時の受け入れ強化等です（別紙1のとおり）。
8	30	(4) リハビリテーション病院・自立訓練施設	イ 回復期リハビリテーション医療の充実	【365日リハビリテーション医療の提供】 評価を「3」としているが、実施単位数は7.9であり、訪問リハ・外来リハを実施するなど病院の意義が図られており、「4」と評価してもいいのではないか。	365日リハビリテーションの充実・強化を図り、患者1人当たりのリハビリテーション実施単位数も順調な伸びを示すとともに、訪問リハ・外来リハの拡充にも取り組み成果をあげていますが、年度計画を大きく上回って実施したとまでは言うことはできないと考え、順調に実施しているとの評価をしたものです。
9	32		エ 自立訓練施設の利用促進	施設利用の拡大の対策を検討したり、対策を積極的に試みているが、評価「2」の理由は何か。また、利用者減少の大きな原因となっているのは何か。	この小項目のうち「連続性のある訓練の実施及び訓練内容の充実」については、評価「3」（計画を順調に実施している）、若しくは評価「4」（計画を上回って実施している）と評価しても良いと考えています。 しかしながら、「施設利用者の拡大」については、数値目標である月平均利用者数が、38.2人となっており、28年度目標の48.4人を大きく下回るとともに、27年度の実績の40.8人をも下回っているため、厳しく評価を行ったものです。 全国的にも、自立訓練施設の主たるサービスである障害福祉サービスの自立訓練施設（機能訓練）の利用者は減少傾向にあります。この原因は介護保険サービスの充実等にあると見られており、自立訓練施設の利用者減少の大きな原因も同様であると考えています。

大項目：第1-2 医療の質の向上

No.	頁	小項目		意見・質問	回答
10	35	(1) 医療需要の変化、医療の高度化への対応	ア 医療スタッフの知識の習得や技術の向上	【院内研修の充実】 舟入市民病院やリハビリテーション病院などの施設の記載は必要ないか？	各病院が実施しているものの他、舟入市民病院として特記するものとしては、「重症心身障害児(者)医療型短期入所事業利用者に対するケアポイント」及び「こどもの権利」研修を行いました。 リハビリテーション病院においては、外部講師を招いて10月には「維持期の生活」について、12月には「地域包括ケアシステムにおける回復期リハビリ病棟のあり方」についての研修会を行いました。 ※一つ目の項目に包含されると考えて個別には記載しませんでした。
11	37		ウ 診療体制の充実	診療体制の再編を伴った医療技術者の増員なのか。	再編のために行ったものではありません。 「早期リハビリテーションの強化」「血管造影検査体制の強化」のために行ったものです。
12	38	(2) 医療の標準化の推進		【クリニカルパスの点検、作成】 クリニカルパス適応基準は適正か。 来年度の適応率の見通しはどうか。改善が予想されるのか。	クリニカルパスは、患者さんと協働して標準的な医療を安全に行うための重要な手法であり、適用基準はないものの、その性格上適用症例の増加が望めます。 しかし、28年度は、使用頻度の低いパスや、計画通りの運用ができなかったパスについて、削除や内容の見直しなども行ったため、適用率が低下しました。 現在、パス委員会などで精度を高めながら、各病院とも新たなパスの作成に取り組んでおり、適用率は改善されと考えています。
13	45	(4) 医療の安全確保の徹底	ア 医療安全管理体制の強化	【関連情報の収集・分析、院内研修等の実施】 記載されている取組の実施により事例や事象の減少や発生率の改善が認められたか。かなりの改善が認められるのであれば「4」と評価するのではないか。	医療安全確保を強化した取組で、発生率の改善も含め、新たな発生を防止することを目的としていることから、年度計画を順調に実施しており、「3」と評価したものです。

大項目：第1-3 患者の視点に立った医療の提供

No.	頁	小項目		意見・質問	回答
14	54	(4) 相談機能の強化		【入院支援室の設置（安佐市民病院）】 入院センターは入院支援室と考えるのか。設置することを年度目標に掲げられているので、評価「4」の理由として、何か計画を上回ったものがあるのか。	入院センターは、入院支援室と同じものです。 当初計画では対象とする診療科を限定し、さらに対象者はクリニカルパスを使用する患者に限定することにしていましたが、対象となる診療科を拡大するとともにクリニカルパス以外の予定入院の患者まで対象を拡大しました。さらに、各診療科の負担軽減のみならず、術前や治療前の検査の調整も行うことで、入院までにスムーズな検査ができるようになり、患者の利便性にも貢献しましたので、評価を「4」としました。
15				【入院支援室の設置（安佐市民病院）】 入院センターの設置はP57の入院手続きの集約化になるのではないか。	入院センターを設置することで、相談機能を強化しました。 御指摘のとおり、入院手続きの集約化、簡素化になり、入院患者の利便性の向上につながっています。
16	57	(5) 患者サービスの向上	ウ 入院手続きの集約化	【入院支援室の運営・設置】 入院センターは入院支援室と考えるのか。設置することを年度目標に掲げられているので、評価「4」の理由として、何か計画を上回ったものがあるのか。	入院センターは、入院支援室と同じものです。 当初計画では対象とする診療科を限定し、さらに対象者はクリニカルパスを使用する患者に限定することにしていましたが、対象となる診療科を拡大するとともにクリニカルパス以外の予定入院の患者まで対象を拡大しました。さらに、各診療科の負担軽減のみならず、術前や治療前の検査の調整も行うことで、入院までにスムーズな検査ができるようになり、患者の利便性にも貢献しましたので、評価を「4」としました。

大項目：第1-5 市立病院間の連携の強化

No.	頁	小項目		意見・質問	回答
17	68	(1) 一つの病院群としての病院運営の推進		【病院間の人事交流】 病院間の人事交流に係る異動者数の年次推移がわかれば教えてほしい。	別紙2の項番1のとおり

大項目：第1-6 保健医療福祉行政への協力

No.	頁	小項目		意見・質問	回答
18	70	(2) 災害等の緊急事態への対応		【緊急時における医療救護活動の実施】 熊本地震対応がP12, P19の各病院にあるが、この小項目における緊急対応は広島市地域防災から拡大した地域での活動も入るのか。	中期計画では、「広島市地域防災計画等に基づき、市長からの求めに応じて適切に対応するとともに、自らの判断で医療救護活動を行います」としています。 28年度に行ったDMATや医療救護班の派遣は、広島県から広島市民病院及び安佐市民病院に支援要請があり、自らの判断で出動したものです。 当該DMATや医療救護班を迅速かつ的確に派遣し活動したことを災害等の緊急事態への対応として評価しています。

大項目：第2-1 業務運営体制の確立

No.	頁	小項目		意見・質問	回答
19	73	(3) 病院事務室の機能強化		【病院経営に精通した人材の民間等からの採用】 プロパー事務職員9名の業務歴等の概要と配置、及び、医療業務管理職経験者1名の概要と配置をご教示下さい。	別紙2の項番2及び3のとおり

大項目：第2-2 人材の確保、育成

No.	頁	小項目		意見・質問	回答
20	79	(1) 病院を取り巻く環境変化に迅速、柔軟に対応した人材の確保	キ 病院間の人事交流の推進	【人事交流の推進】 病院間の人事交流に係る異動者数の年次推移がわかれば教えてほしい。	別紙2の項番1のとおり

大項目：第2-3 弾力的な予算の執行、組織の見直し

No.	頁	小項目		意見・質問	回答
21	85	(1) 弾力的な予算執行		【弾力的な予算執行】 平成28年度予算編成で、各病院長の意見が反映された具体例を提示してほしい。	施設整備・医療機器等購入に係る整備費は、中期計画で26～29年度の総額147.8億円を定めました。 28年度予算編成にあたっては、各病院長の意見を反映させて、この総額の範囲内において見直し、必要な医療機器等の整備を行いました。（内訳等別紙2の項番4のとおり）

大項目：第2-4 意欲的に働くことのできる、働きやすい職場環境づくり

No.	頁	小項目		意見・質問	回答
22	91	(3) ワーク・ライフ・バランスの推進	ウ メンタルヘルス対策の実施	【ストレスチェックの実施】 ストレスチェックの実施について、各病院の実施率、医師の実施率とハイリスク率、ハイリスク該当者の相談窓口利用数を教えてください。	別紙2の項番5のとおり

大項目：第3経営の安定化の推進

No.	頁	小項目		意見・質問	回答
23	93	(1) 中期目標期間中の経常収支の黒字の維持		【経営状況・分析を踏まえた病院運営の実施】 募集されたアイデアの中に経営改善に有効と思われるものがあれば、提示してほしい。また、これらの意見を踏まえて来年度は改善あるいは黒字化が期待できると思うか。	多くのアイデアの中で、実施に向けて経営会議で検討の進捗状況を定期的に報告しているものとしては、安佐市民病院の「PET-CTを活用したがん検診の実施」や「栄養指導加算の対象疾患の拡大を周知すること等による栄養指導料の算定率の向上」などがあります。 29年度は、4病院が「経営改善計画」を年度当初に策定し、経営改善のための具体的な取り組みを掲げ、収支改善を図ることとしており、経営状況の厳しさを、全職員が共有し、経営改善に向け一丸となって取り組み黒字の確保を目指しています。 主な取組項目内容 ＜広島市民病院＞ 「手術管理システム オペラマスター導入による手術件数の増」、「ICU内HCUの4床設置」、「診療報酬の各種加算の取得」、「時間外勤務の削減」など ＜安佐市民病院＞ 「ハイケアユニット入院医療管理料1の算定」、「マルチスライスCT更新に伴う検査件数の増」など ＜舟入市民病院＞ 「生活習慣病に対する検査の実施率の向上」、「新たな医学管理料の算定」 ＜リハビリテーション病院＞ 「土日・祝日のリハビリ実施数の増」、「外来リハビリテーションの拡充」など
24				【経営状況・分析を踏まえた病院運営の実施】 目標値に達していないので評価は「2」になるのかもしれないが、一方で厳しい医療環境を考えると「3」でよいのではないか。	機構の設立目的は、病院の抱える課題や今後の病院を取り巻く環境変化に的確に対応し、安定した経営の下、より充実した医療サービスを提供していくことにあります。このため、28年度も、充実した医療サービスの提供に必要な人員確保による体制整備と医療機器の積極的な更新等に努めました。他方で、経営の安定化は、より質の高い医療サービスを提供するという使命を持続的に果たしていくために必要な土台であり、全職員が一丸となって、医業収益の更なる確保と一層のコスト削減に努め、経営の改善を図りました。 結果として目標としている「経常収支比率」が赤字収支となり、中期計画の28年度目標値を達成しなかったことから「2」と評価しました。
25	94	(3) 経費の削減		赤字収支の改善に色々と努力されているが、最終的には今年度も赤字になっている。自己評価「4」の具体的な説明があると同意しやすい。	機構の設立目的は、病院の抱える課題や今後の病院を取り巻く環境変化に的確に対応し、安定した経営の下、より充実した医療サービスを提供していくことにあります。このため、28年度も、充実した医療サービスの提供に必要な人員確保による体制整備と医療機器の積極的な更新等に努めました。他方で、経営の安定化は、より質の高い医療サービスを提供するという使命を持続的に果たしていくために必要な土台であり、全職員が一丸となって、医業収益の更なる確保と一層のコスト削減に努め、経営の改善を図りました。 年度計画に掲げている経費の削減策を着実に推進し経費削減に努め、目標値としている「後発医薬品採用品目比率」及び「給与費対医業収支比率」において既に中期計画の29年度の目標値を達成したため、「4」と評価しました。

4 その他

No.	頁	小項目		意見・質問	回答
1				法人運営上のマイナス情報の提供をお願いします。	28年度末現在の訴訟案件が3件あり、請求額は医療訴訟2件で1億3千万円余り、労働訴訟1件で2千3百万円余りとなっております。しかしながら、法人化以降、敗訴により賠償した事案はありません。